

▼クレミン錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】 モサプラミン塩酸塩 mosapramine hydrochloride 【分類】 精神神経安定剤 [イミノジベンジル系]

【単位】 ▼10mg・▼25mg・▼50mg/錠

【常用量】 30～150mg/日 [最大 300mg/日]

【用法】 1日3回

【透析患者への投与方法】 尿中排泄率が低く、おそらく減量の必要はない (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 尿中排泄率が低く、おそらく減量の必要はない (5)

【特徴】 D2 受容体遮断作用と 5-HT₂ 受容体遮断作用を併せ持つ抗精神病薬で、統合失調症の幻覚・妄想などの陽性症状や、自発性欠如・感情鈍麻などの陰性症状に効果を示す。ドパミン 2 (D₂) 受容体に対する親和性はハロペリドールの 4 倍、スルピリドの 170 倍 (下村真司: ファルマシア 27: 706, 1991)

【主な副作用・毒性】 悪性症候群、麻痺性イレウス、遅発性ジスキネジア、血球減少、血栓症、SIADH、眼障害、QT 延長、VT、眠気、睡眠障害、めまい・ふらつき、知覚異常、運動失調、痙攣、過鎮静、意識障害、肝障害、アカシジア、眼調節障害、消化器症状、尿閉、発熱など。自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させない。嘔吐症状を不顕性化。中毒症状は、傾眠から昏睡までの中枢神経系の抑制、血圧低下と錐体外路症状で、激越と情緒不安、痙攣、口渇、腸閉塞、心電図変化及び不整脈等があらわれる可能性がある。

【F】 7% [ラット], 30% [イヌ] (1)

【t_{max}】 6～7hr (1)

【代謝】 主代謝物はイミノジベンジル核 8 位の水酸化体 (M5) のグルクロナイドと末端スピロアミン部の脱水素化体 (M1) でいずれも D2 受容体遮断活性がある (1)

【排泄】 尿中に未変化体としてはほとんど回収されず、ほぼ胆汁排泄される (1) 【CL】 資料なし (1)

【t_{1/2}】 15hr (1)

【蛋白結合率】 98% (1)

【V_d】 資料なし (1)

【MW】 551.98

【透析性】 PBR が高く、除去されないとされる (5) 資料なし (1)

【O/W 係数】 有機相に分配 (1)

【相互作用】 アドレナリンの血圧反転 (1)

【更新日】 20170919

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。